

被差別少数琉球民族は存在しない

～デマゴグとプロパガンダは21世紀の国際社会には通用しない～

我那覇 真子

現在沖縄において、日本国沖縄県民を琉球民族として捉えようとする動きが活発化している。これは学術的な分野の活動ではなく、あくまで政治的な動きであり、その為は無理な論理の展開や不合理な解釈がなされている。これらは、専門家やあるいは、歴史的な事実と照らし合わせれば一目瞭然なものばかりであり、決して学界の専門的な場で論じられる事はない。その主張は、主に新聞紙上によって展開され、一方向的であり琉球民族という概念が成立するののかという議論、討論はなされることのない。

沖縄人は、紛れもなく日本人の一つを成している。これは既に結論がはるか前に出されており、文化的、そして言語的にこれを確かめるのは容易である。そこで、琉球民族という誤った概念を生み出そうとする人々らは、民族という定義の変更を持ち込んでいる。これは、国連人権理事会で定義されている民族と異なるものであり、明らかに変種である。これによって日本民族の一員である沖縄人を異民族として位置づけようとしている。これは民族分断に他ならない。

更に琉球民族論者は、日本から差別の被害を受けていると主張している。つまり、自分達を日本国内の被差別民族であるとしたいようである。結局その事は、琉球独立運動という流れになる事は間違いないであろう。

我々は、当の東西を問わず、国の違いにも左右されず、唯事実に基づいて物事を論じなければならない。近代人とはそういうものであろう。日本には、琉球民族という少数民族など存在せず、又現代の沖縄は世界の中で最も自由と安全が保障され又、基本的人権も最高度に保障される幸せの中にある。よって沖縄人が被差別少数民族というのは政治的プロパガンダに過ぎず、その裏にはある政治目的の存在があることが推察される。

現在の東アジアの情勢の中で沖縄人が差別と抑圧を受ける琉球民族であり、独立を望んでありとなると、一番に都合がいいのが中国である。中国は以前から沖縄は日本の領土と認めない、独立運動はこれを支援すると明言している。間違いなく中国はこれを口実に沖縄を侵略する事になるだろう。沖縄人は琉球民族とする欺瞞は、そういう危険性を強く秘めている。

日本の専門家の多くが、琉球独立運動の背後には中国がいると指摘している。確かに、近年の中国の東シナ海、南シナ海での軍事的膨張はこれを裏付けている。

私達は、国連人権理事会の少数民族問題解決の活動がこのような政治的謀略に利用される事を心から危惧している。

国連人権理事会の使命が政治的な利用によって冒瀆されないように心から願うものである。